

北信越高校生ものづくり審査

科技高女子2人が闘志

電気工事部門 作業正確さ武器に

高校生ものづくりコンテスト北信越大会の電気工事部門に、共に科学技術高電気電子科3年の増田ひなたさんと酒井愛梨さんの女子生徒2人が出場する。金属加工など相当な力が必要な競技で男性が有利とされるが、特製の工具と作業工程の見直しで克服。4月からの練習で磨いてきた作業の正確さを武器に挑む。

同コンテストはものづくり学習の成果発表の場として、全国工業高等学校長協会が毎年開催している。旋盤作業、自動車整備、溶接など8部門がある。電気工事部門の県大会は1日に坂井市で行われ、増田さんが最優秀賞、

酒井さんが優秀賞とワンツーフイニッシュを決め、29、30日に富山市で開かれる北信越大会の出場を決めた。電気工事部門は、制限時間内に施工図に従って1・8四方の木板に電気配線工事を行い、技術の正確さを競う。工具を用いて金属管を曲げたり切断したりする工程がある。同科の担任、

中村元教諭(42)は「力ではどうしても女性に不利であるほか、電気工事分野には女性が少ないこともあり、同部門に女子生徒が出場することは珍しい」という。

少しでも力の差をカバーできるようにと、中村教諭ら教員2人が、小さな力で

北信越大会に挑む増田さん(左)と酒井さん＝25日、福井市の科学技術高



金属管を曲げられる特製の工具を作った。部品取り付けの順番も作業しやすいように見直して時間短縮を図った。放課後や夏休みも登校して練習を重ねた。

2人は、一緒に練習を重ねる仲間、ライバルでもある。増田さんは「県大会で酒井さんの作業の音が聞こえ

1人で戦ってるんじゃないと安心できた」と振り返る。酒井さんも「1人ではここまで来られなかった」と互いが心強い存在という。そしてライバルとして「北信越大会では勝ちたい」と口をそろえる。切磋琢磨しながら、全国大会への挑戦を目指す。(佐伯晴人)